

青梅市文化財ニュース

第206号

平成16年12月15日

発行 青梅市文化財保護指導員連絡協議会

青梅市郷土博物館（青梅市駒木町1-684 TEL0428-23-6859）

青梅市内の活断層

平成16(2004)年10月23日午後5時56分、新潟県北魚沼郡川口町を震源として大地震が発生しました。この地震の規模はマグニチュード6.8、最大震度は7で、気象庁によって、「新潟県中越地震」と命名されました。地震による被害は、1か月後の11月23日までに死者40人、負傷者2,859人、家屋全壊2,554棟、大規模半壊家屋469棟、半壊家屋4,655棟、一部損傷52,649棟でした。この間の避難者は6,570人で、そのうち避難所生活者は5,803人、テント・車中泊者は767人でした。

また山古志村や川口町などの山間部では、各地で地滑りが発生し、道路網が寸断されたため、孤立した集落が各地で出現しました。地震の規模に比べて、家屋や耕作地の被害が大きいことが特徴的で、地滑りに伴って土砂で川がせき止められ、震生湖も出現し、下流の住民たちはせき止めた土砂の崩壊に警戒しています。

地震は、何時・何処で・どの程度の規模で発生するかについては、現在の知識では予知することがまったく出来ません。これまでの研究では、地震が起きた後は、数十年間はその近くでは発生しないということや、地形や地質といった土地（場所）の性質によって、被害の受け方が大きく異なるということです。

地震では「活断層」が再活動する場合に発生し易いと言われていますが、新潟県中越地震では、まだ明瞭な活断層は確認されていません。

青梅市内には、2本の活断層が走っています。そのうちのひとつは、和田町一丁目の馬引沢から柚木町を通り、沢井の榎峠を越えて名栗村に向かう「名栗断層」です。ここでは、1994年12月19日15時54分に震源の深さ15.5km、マグニチュード4.4の「青梅地震」が起きました。家屋の倒壊や道路の破損といった被害はありませんでしたが、コンクリートで構築された駐車場にヒビ割が入ったり、石灯籠や墓石がズレたり倒れたりといった被害が起きました。建て付けが悪い建物のガラス窓が割れた所もいくつかありました。

もう一つの活断層は、「立川断層」です。これは小曾木五丁目にある「岩蔵の大岩」から笹仁田峠→七日市場→青梅インター→狭山池→殿ヶ谷→砂川三番→立川市曙町

を経て、日野市落川までの約 25km で延びています。断層を境として、北東側が南西側に比べてせり上がる逆断層で、七日市場では北東側が南西側に比べて約 3m 高くなっています。

立川断層が出現したのに伴って、どの程度の規模の地震が発生するかということについては、新潟県中越地震と同程度、すなわちマグニチュード 6.5 前後と予測されています。最新の発生時期は約 1300～1400 年前と考えられています。今後、何時、活動するかということについては、まったく資料がありませんが、研究者の多くは、この数百年間は大規模な地震を起こすことはないだろうと考えています。

（文責 角田 清美）